



遺跡遺景 (現在調査中)

伊勢原市子易地区に所在する子易・中川原遺跡は、新東名高速道路建設に伴い平成24年度から調査を継続しています。現在は3e工区+2工区残地から4-1④工区+5a工区にまたがる縄文時代～中世の埋もれた谷と縄文後期の集落（住居跡）などを調査しています。この谷地形は、縄文時代には周辺集落の水場として利用された可能性があり、弥生時代の河道も発見されています。中世には、埋もれた谷の上面に石を敷いた道路跡が見つかっており、近世には畑地・水田となっています。このように、各時代にわたって谷地形を利用してきた様子が分かってきました。

およその年代
35000年前 15000年前 2500年前 1700年前 1300年前 800年前 400年前 150年前

旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世

今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。



5a工区の中世石敷溝状遺構（隣接する3d工区で発見されていた遺構の延伸部分）

今回の調査（3e+2工区残地・4-1④+5a工区）で明らかになったこと

- ①縄文時代～中世の埋もれた谷が発見されました。
- ②谷地形は近世にはほぼ埋まっており、宝永火山灰を廃棄した天地返し（天返し）の痕跡が見つかりました。
- ③中世には、石敷溝状遺構（道路跡）が見つかりました。
- ④古墳時代～奈良・平安時代には積極的な土地利用の痕跡は見つかっていません。
- ⑤弥生時代には河道（自然流路）があり、加工された木材片などが発見されています。
- ⑥縄文時代における谷地形の利用は不明ですが、周辺（丘陵部分）には縄文中期後半と縄文後期前半の集落が発見されています。
- ⑦今回の調査でも、石を多く使った縄文後期の住居跡が発見されています。

主催：公益財団法人かながわ考古学財団
共催：伊勢原市教育委員会



▲子易・中川原遺跡 3c 工区
奈良・平安時代畝状遺構 (東から)



▲子易・中川原遺跡 3d 工区
中世石敷溝状遺構 (東から)



▲子易・中川原遺跡 1-1・1-2 工区
中世礎石建物群 (寺院跡) (東から)



▲子易・中川原遺跡 2 工区
中世池状遺構 (南から)



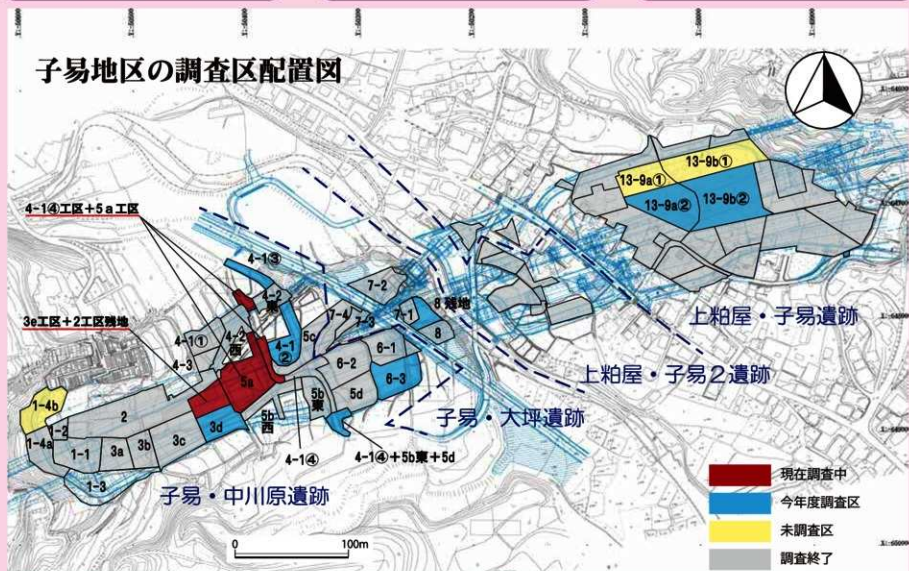
▲子易・中川原遺跡 4-1①工区
中世掘立柱建物群 (東から)



▲子易・中川原遺跡 6-1 工区
中世掘立柱建物群 (屋敷跡) (南から)



▲子易・中川原遺跡 6-3 工区
1号墳 (方墳) (南東から)



▲子易・中川原遺跡 6-2・6-3 工区
中世掘立柱建物群 (屋敷跡) (南から)



▲子易・中川原遺跡 4-1④・5d 工区
2号墳 (円墳) (南東から)



▲子易・中川原遺跡 4-1②・5c 工区
縄文時代後期集落 (南から)



▲子易・中川原遺跡 4-1②工区
縄文時代後期敷石住居跡 (南東から)



▲子易・中川原遺跡 4-2 工区西
縄文時代後期集落 (北西から)



▲子易・中川原遺跡 4-2 工区東
縄文時代後期土坑墓・配石墓群 (南から)



▲子易・中川原遺跡 4-1③工区
縄文時代後期配石墓群 (西から)